

はじめの一步①

3月23日(土) ~ 3月24日(日)

IN 京都市立花脊山の家

	午前	午後	夜
1日目	施設まで移動	レクリエーション	キャンプファイヤー
2日目	清掃・レクリエーション	工作・施設を出発・解散	

一日目： おはようございます。各集合場所から JR 京都駅へと集まり、いよいよ一泊二日のキャンプが始まります。例年に比べて少人数なことに加えて、キャンプ経験者が多かったこともあり、和やかなムードでキャンプが始まりました。グループに分かれた後は、早速バスに乗り込みます。バスの車内では自己紹介から始まり、【私は、誰でしょう？】のクイズで盛り上がりました。施設の到着後、荷物をみんなで協力して宿泊棟まで運びました。昼食まで少し時間があつたので、【名札作り】を行いました。一泊二日という短い時間のため、名前を覚えてもらうことはとても大切です。みんなに覚えてもらえるよう、こだわりを詰め込んだ名札を作りました。そのまま室内で昼食を済ませ、昼食後はお待ちかねの遊ぶ時間です。生憎のお天気でしたが、室内ならではの遊び、【新聞紙タワー】を行いました。他のグループと自分のグループの高さを比べながら、時間ギリギリまで試行錯誤して高いタワーを作り上げました。時間いっぱい遊んだ後は、明日の【特大すごろく】に向けて、グループで一つ大きなサイコロを作ります。形が出来たら試し投げをしながら、グループの個性溢れるサイコロを作っておられました。夕食までの時間で荷物を部屋に入れ、次のプログラムに向けて準備を進めます。自分で準備を進めることもキャンプの醍醐味です。夕食は食堂にてバイキングです。好きなものばかりにならないようにバランス良く取ります。夕食の後は、少し薄暗くなってきた外に出て【キャンプファイヤー】を行いました。リーダーが用意したレクリエーションに声を出し、体を一杯動かし、夜が更けるまで楽しみました。あつという間に楽しい時間は終わりました。施設に戻り、入浴を済ませて宿泊棟へ向かいます。眠たい目をこすりながら明日の準備や歯磨きをし、就寝準備を進めます。布団に入り、消灯して間もなくするとどの部屋からも寝息が聞こえてきました。明日もたくさんさんの活動が待っています。ぐっすり寝て明日に備えましょう。



二日目： 早めの起床でしたが、スッキリ目覚められていました。二日目は朝から大忙しです。朝食の前にシーツの片付けを終わらせました。まだ、少しぼーっとしている様子が伺えましたが、朝食までに手早く終わらせようと、グループで力を合わせて動いておられました。みんなで力を合わせたおかげで予定通りに朝食作りに取り掛かることが出来ました。朝食は、キャンプ定番の【バックドック】を作ります。作り方をよく聞いて、一人一つずつ作ります。焼き上がりは熱々でしたが、朝からたくさん動いてお腹が空いたのか、ペロリと平らげました。朝食後は、部屋に戻り清掃を行いました。清掃後は、みんなお待ちかねの【特大すごろくゲーム】の時間です。自分達で作ったサイコロを投げて、ゴールを目指します。1 ターンごとにリーダー達の用意したミニゲームにも挑戦し、大盛り上がりでした。時間内にぎりぎりゴールが出来なかったグループもありましたが、頑張った結果を称え合いました。その後は、昼食を食べるために食堂へ向かいます。昼食後は、最後のプログラムの【思い出工作】を行いました。今回の工作は、ミニサイコロを作ります。自分だけのサイコロということもあり、思い思いに絵を描いておられました。工作をしていると時間はあつという間です。最後に集合写真を撮り、お世話になった施設を背にバスへ乗り込みます。京都駅へ向かうバスの車内では、疲れからか眠られている方や最後までお喋りを楽しむ方がおられました。順調に京都駅へ到着し、最後のお別れの挨拶をして、各々の解散場所へ帰りました。



<キャンプ総括>

この度は、「はじめの一步①」にご参加いただき誠にありがとうございました。私自身、最後のキャンプディレクターだったため、はじめの一步らしいことではなく、「はじめの一步でもこれだけのことが出来るんだ!」ということのを少しでも伝えたいという想いの基、プログラムの構成を行いました。生憎の天気でしたが、室内ならではの遊びを取り入れながら、念願の【特大すごろく】を行い、私自身も楽しみながら活動を進めることが出来ました。施設の関係でカレー作りが出来ず、物足りない部分もあったとは思いますが、それでも「ミニゲームが楽しかった!」、「もう一回したい!」という声を聞くことが出来たので、みんなの楽しむ力があれば、カレー作りがなくても大丈夫だと感じる事が出来ました。また、今回私だけが突っ走るのではなく、【みんなで一緒に二日間を作っていくこと】を裏テーマに、リーダーをはじめ、メンバーの皆さんにも沢山協力をしていただきました。その想いが伝わっていたのか、与えられたものを楽しむというよりも自分達で作ったものを楽しんでいるように感じました。私が声を出さなくてもすごろくのゲームが自然とみんなの力で進んでいったこともその現れだと感じています。今回のキャンプを経て、大きな一步を踏み出した方もおられると思います。今回の一步をぜひ、次の一步へと繋げていってください。夏に皆さんの姿が見られることを楽しみにしています。

(橋本 里佳)